

2020 年度

事業計画書

公益財団法人宇宙科学振興会

2020 年度事業計画書

2020 年度は当財団が公益財団法人に移行して 9 年目に入る。2020 年度に遂行する公益目的事業は、移行時に公益目的事業として申請した、①宇宙科学奨励賞事業、②国際学会出席旅費支援事業、③国際学会開催支援事業、を昨年度並みの規模で実施するものとする。管理費で行う宇宙科学に関する一般支援助成についても、2020 年度においてはほぼ 2019 年度並みの水準で実施するものとする。なお、2020 年度は財団発足後 30 周年に相当することから財団の活動を紹介する記念誌を発行するものとする。

I. 公益目的事業

(1) 宇宙科学奨励賞事業

宇宙科学奨励賞事業は、宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ、将来宇宙科学を推進する中心となるものと期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的としている。本事業では、宇宙科学各分野の研究者より、37 歳以下で最近著しい成果を挙げている若手研究者を国内で広く推薦していただき、宇宙科学各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の選考を行い、原則として宇宙工学関係から 1 名、宇宙理学関係から 1 名、合計 2 名の候補者を選出する。これに基づき理事会が受賞者決定の決議を行う。宇宙科学奨励賞候補者の推薦依頼は、当財団の公式ホームページに公示すると共に関係学会の学会誌または学会ホームページに推薦依頼の掲示をお願いする。授賞者には表彰式において本賞（賞状と表彰楯）と共に副賞を贈呈する。副賞賞金は 30 万円/人としている。表彰式に引き続いて祝賀会をとり行う。

2020 年度は 7 月中に各界への推薦依頼を行い、10 月 31 日推薦締め切りとし、選考委員会による審査選考は 11 月～12 月の間に行う。選考の結果については 2021 年 1 月中に受賞者は本人、推薦者他関係者に通知すると共に財団の公式ホームページに発表する。その後 3 月には、当該年度の宇宙科学奨励賞受賞者の表彰式及び受賞記念講演を行う。受賞記念講演の内容はホームページに公開するとともに、その対象となった研究の概要は宇宙科学研究所の I S A S ニュースに投稿していただく。

(2) 国際学会出席旅費支援事業

国際学会出席旅費支援事業では、宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている 35 歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の助成を行う。若手に加えて、大学及び研究機関などを退職後も、活発な研究を行っておられるシニアの研究者の方に対しても助成を行う。年度の上半期（4 月～9 月）開催の国際学会に出席・論文発表する者には応募申請の締め切りを同年（前年度に該当）2 月末日、年度の下半期（10 月～翌年 3 月）開催の国際学会に出席・論文発表する者には応募申請の締め切りを 8 月 31 日としている。応募者の旅費支援は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査され、理事長は理事会の委任により採択者を決裁する。審査の結果採択された助成対象者には、本人に対して渡航費として助成金の支給を行い、その発表論文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報を含めて財団のホームページに公表す

る。渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を提出願い、それをホームページに掲載する。

ここ数年の傾向として、特に若手の国際学会旅費支援事業の採択率が国際学会開催支援事業の採択率よりかなり低いため、助成審査委員会および運営委員会の審議を経て、国際学会開催支援事業の支援費を従来より 30 万円減額し、国際学会旅費支援事業の支援費を従来より 30 万円増額することが決められた。その結果、この事業に対する 2020 年度の支払助成金総額は別表 1 の通り 210 万円とする。公募においては助成金額を 1 件当たり 10～35 万円としている。従って、2020 年度には前期、後期併せて 10 件前後の国際会議出席旅費支援が可能である。

(3) 国際学会開催支援事業

国際学会開催支援事業では、宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学を含む）の国際学会・研究集会の日本国内での開催を主催する組織・団体に対する支援を行う。全国の研究機関・大学において理論分野等も含めて宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合を対象とした公募型事業として実施する。年度の上半期（4 月～9 月）開催分の応募申請の締め切りを同年（前年度に該当）2 月末日、年度の下半期（10 月～3 月）開催分の応募申請の締め切りを 8 月 31 日としている。国際学会開催支援への応募は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。助成額は研究助成審査委員会において、申請された日本国内における国際学会開催の学術的意義、分野への波及効果、助成金の使途の有効性を評価したうえで査定が行われ、理事長は理事会の委任により採択を決裁する。審査の結果採択された助成対象国際会議は、その開催代表者、国際会議名、開催場所、日時等の情報が財団のホームページで公開される。また、当財団の支援を受けた国際会議についてはその旨を報告書や論文収録に記載いただき 1 部寄贈いただくとともに、会議の様子、成果をまとめた報告書を提出いただき、これをホームページに掲載・公開する。

ここ数年の傾向として、特に若手の国際学会旅費支援事業の採択率が国際学会開催支援事業の採択率よりかなり低いため、助成審査委員会および運営委員会の審議を経て、国際学会開催支援事業の支援費を従来より 30 万円減額し、国際学会旅費支援事業の支援費を従来より 30 万円増額することが決められた。その結果、この事業に対する 2020 年度の支払助成金総額は別表 1 の通り 100 万円とする。1 件当たりの助成額は開催する国際学会の規模に応じて 20 万円～50 万円としている。従って、2020 年度には前期、後期併せて 3～4 件の国際学会開催支援が可能である。

表 1. 2020 年度 公益目的事業助成金等 予算作成額

助成内容	(参考) 2019 年度 予算額	(参考) 2019 年度実績	2020 年度 予算作成額
宇宙科学奨励賞 賞金	600,000	600,000	600,000
国際学会出席旅費支援	1,800,000	2,040,000	2,100,000
国際学会開催支援	1,300,000	1,300,000	1,000,000

II. 財団の管理運営等法人会計関係

宇宙科学に関する一般支援助成

宇宙科学に関する一般支援助成では、他組織・団体が主催する事業・イベントに対し支援を行う。支援対象は理事会傘下の運営委員会で審議して選定し、理事会で承認する。助成金を提供した場合は、実施の報告書あるいはそれに相当する書類の提出をお願いしている。

2020 年度は、別表 2 の通り、6 団体への支援を予定する。2020 年度は隔年開催の宇宙技術および科学の国際シンポジウムが開催されないことから、支払助成金の総額は、2019 年度予算より 10 万円減少し、80 万円となる。

表 2. 2020 年度 宇宙科学に関する一般支援助成

助成内容	(参考) 2019 年度予算額	(参考) 2019 年度実績額	2020 年度 予算作成額
1 一般財団法人日本宇宙フォーラム/ 衛星設計コンテスト協賛金	120,000	100,000	120,000
2 一般社団法人日本航空宇宙学会/ 宇宙技術および科学の国際シンポジウ ム賛助金(隔年開催)	100,000	100,000	0 (2020 年度は開催なし)
3 JAXA/ 君が作る宇宙ミッション事業共催(消耗 品)	130,000	128,399	130,000
4 JAXA/相模原キャンパス特別公開共 催(スタンプラリー景品代)	200,000	179,186	200,000
5 特定非営利活動法人日本モデルロ ケット協会/ モデルロケット全国大会助成金	200,000	200,000	200,000
6 一般社団法人あきた宇宙コンソーシ アム/能代宇宙イベント協賛金	100,000	100,000	100,000
7 多摩六都科学館/サイエンスレクチャ ー共催(宇宙科学奨励賞受賞者派 遣旅費)	50,000	2,216	50,000
合計	900,000	809,801	800,000

なお、公益目的事業および財団の管理運営に必要な、職員給与、会議費、交通費、什器備
品消耗品購入費、賃借料、支払手数料等、一般的な経常費については前年度実績に準じて
予算計上する。